

目標	評価項目	令和6年度目標	目標達成のための方策	具体的取組及び結果	達成度	次年度の課題と改善策	評価コメント
1 優秀な入学者の確保	○オープンキャンパスの参加数	・オープンキャンパス参加者 40 名以上	・農業系高校等との連携強化 ・農大の情報の提供 ・各機関・団体への周知	・オープンキャンパスの参加者数は、44名であった。 7月7日（日）と8月24日（土）の2回開催。 参加者が興味のある2つの専攻コースを選択し、在校生との交流や施設見学及び実習体験を実施した。 ・農業系高校等との連携 【上記目標○受験者数の欄に再掲】 ・農大広報誌「緑旗」の発行 【上記目標○受験者数の欄に再掲】 ・プレスリリース 【上記目標○受験者数の欄に再掲】 ・学校案内（学生募集やオープンキャンパスを掲載）の資料配布 【上記目標○受験者数の欄に再掲】 県民だより（県広報誌7月号）にオープンキャンパス募集記事を掲載した。 FM佐賀、NBCラジオでオープンキャンパスの開催告知をした。	A	【<u>農業校、普通校、私立高への参加拡大</u>】 高校へ出向き、募集要項の説明、進路ガイダンスを通じ、受験予定している学生に直接オープンキャンパスへの参加を呼びかけるとともに、<u>ラジオや広報誌、Youtubeチャンネル</u>で幅広く農大の情報発信をする。	
2 高い技術力や経営力の習得	【施設野菜】 ○栽培技術の習得 ・IoT機器を活用した栽培管理技術の習得 ・化学肥料のみに依存しない栽培管理技術の習得 ○経営能力の向上 ○GAPの実践を通したよりよい施設園芸の実践	・IoT機器が活用できる学生の割合 100% ・持続可能な農業を実践できる学生の割合 100% ・担当する品目の所得の把握ができる学生の割合 100% ・GAPを実践できる学生の割合 100%	・観察記録と栽培作業日誌の記帳確認 ・IoT機器の活用を前提とした栽培の理論と実際の環境制御技術の指導 ・施設野菜における持続可能な農業を実践 ・作型毎の作付け計画の作成指導と進捗管理 ・経営記帳の指導 ・施設野菜の実習におけるGAPの実践	・毎朝の観察と作業日誌の記録により、観察に基づく管理の意識付けを指導した。 ・環境測定機器の取扱方法を指導した。 ・温湿度と植物の生育の関係について、実際の栽培を通じて指導した。 ・<u>週間天気予報を活用した環境制御装置の設定方法を指導した。</u> ・「みどりの食料システム戦略」の考え方、実施方法について、講義・実習で指導した。 ・プロジェクト課題の設計検討会と中間検討会を実施し、課題の進捗状況を把握しながら、効率的・効果的な研究に取り組めるよう指導した。 ・プロジェクトで取り組む野菜品目における、収量・品質・経費等の記録方法を指導した。 ・プロジェクト課題のとりまとめにおいては、費用対効果を意識するよう所得を算出させた。 ・GAPの考え方、実施方法を、講義・実習で指導を行った。 ・使用資材・機材の整理・整頓や使用履歴の記帳を指導した。	A A A	【栽培管理技術の習得】 ・<u>今後も最新の環境制御技術に係る基礎知識の早期習得と栽培管理の実践に取り組む。</u> また、品目・作型に適した栽培管理の実践に取り組む。 ・有機肥料や天敵等活用し、引き続き持続可能な農業の実践に取り組む。 【経営管理能力の向上】 プロジェクト課題とする野菜品目における、収量、品質、経費等の経営記帳の実践と所得の把握を促す。 ・GAPについては、引き続き出来るところから取組を増やす。	

目標	評価項目	令和6年度目標	目標達成のための方策	具体的取組及び結果	達成度	次年度の課題と改善策	評価コメント
2 高い技術力や経営力の習得	【露地野菜】 ○栽培管理技術の習得 ・播種から収穫までの栽培管理技術の習得 ・先端技術を活用した管理技術の習得	・到達した学生の割合 100%	・播種から収穫まで一連の基礎知識及び栽培技術の習得 ・学生による栽培計画書及び栽培暦の作成指導 ・ <u>先進技術を活用した管理作業の指導</u>	・露地野菜の基礎的な生理生態、基礎知識と管理技術を指導した。 ・一連の作業を説明、実践し、管理・観察日誌等で理解度を確認し、理解度に応じた指導を実施した。 ・プロジェクト品目については栽培計画書を作成させ、管理作業の実践と技術習得を図った。 ・タマネギの売上、コスト計算を行い、所得率、作業性などの経営評価を行った。 ・ <u>ピッカーによるタマネギ収穫を実施し、収穫作業の省力化について学習させ、タマネギの機械化一貫体系について理解を促した。</u>	A	【栽培管理技術の習得】 ・今後も植物の生理生態に関する知識や基本的な生産技術を早期に習得し、品目・作型に適した栽培管理の実践を促す。 ・ <u>タマネギ生産における定植から収穫に至る機械化一貫・省力化技術の習得を図る。</u> ・GAPについては、引き続き実践出来るところから取り組む。	
	○GAPの実践を通したよりよい露地野菜栽培の実践	・GAPを実践できる学生の割合 100%	・露地野菜の実習におけるGAPの実践	・GAPの考え方に基づいて、使用資材等の整理整頓や用途による使い分けを実践・指導した。	A		
	○農業機械の基本操作と維持管理方法の習得	・一連の作業を機械で操作できる学生の割合 100%	・農業機械の操作指導 ・農業機械の仕業点検方法の指導	・トラクター、管理機、草刈機等の操作指導を行い、全学生が全ての農機の基本操作ができるようになった。 ・農業機械の点検を実施し、オイル交換等の基本的な管理ができるようになった。	A		
2 高い技術力や経営力の習得	【農産】 ○栽培管理技術の習得 ・播種から収穫・乾燥調製までの栽培管理技術の習得 ・スマート水田農業機械の操作習得	・スマート水田農業機械が活用できる学生の割合 100%	・播種から収穫まで一連の基礎知識及び栽培技術の習得 ・観察記録と栽培管理日誌の記帳確認 ・スマート水田農業に関する知識の習得 ・ <u>スマート水田農業機械を活用した水田作業の指導</u>	・米・麦・大豆の基礎的な生理生態、基礎知識の指導とその確認のため実習試問による理解度の把握。 ・米・麦・大豆の播種から収穫、乾燥調製まで一連の作業を解説し、実践させ、後日、質疑や作業日誌等で理解度を把握した。 ・ <u>スマート機械の取扱方法の指導を実施。（GPSトラクター、GPS田植機、GPS収量コンバイン、農業用ドローン）</u> ・KSAS対応の農機（トラクター、田植機、コンバイン）については、全専攻学生が操作できるようになり、その他直進アシスト機能を搭載したイセキトラクタについても、KSAS対応機と同様に操作できるようになった。	A	【栽培管理技術の習得】 ・稲、麦類、大豆の生理生態に関する知識や基本的な生産技術を中心に技術習得を図る。 【スマート農業技術の習得】 ・ <u>トラクター、コンバインなど農業機械の操作経験のない学生が多くなってきており、「安全に!」を第1にスマート農業機械の操作習得に取り組み、習熟度の向上を図る。</u> 【GAPの推進】 ・引き続き、GAP意識を高めるための取組を継続する。	
	○農業機械の基本操作と維持管理の習得	・一連の作業が機械で出来る到達学生の割合100%	・農業機械の操作指導 ・作物栽培と連動した機械作業の習得指導 ・機械作業ポイントの作成と他学生への説明会の開催	・大型特殊（農耕車）免許および、けん引（農耕車）、フォークリフト免許を全員取得済み。 ・農業機械の基本操作及び圃場作業の手順を整理させた。 ・専攻内で機械操作ポイントを意見交換する場を設け、操作スキルの向上を図った。	A		
	○GAPの実践を通したよりよい米・麦・大豆栽培の実践	・GAPを実践できる学生の育成 100%	・作物の実習におけるGAPの実践	・GAPの考え方、実施方法を実習内の座学、実践で指導実施。 ・使用資材・機材の整理・整頓の実施指導。 ・使用資材の使用履歴の記帳指導。	A		

目標	評価項目	令和6年度目標	目標達成のための方策	具体的取組及び結果	達成度	次年度の課題と改善策	評価コメント
高い技術力や経営力の習得	2 【果樹】 ○主要常緑・落葉果樹の栽培技術の習得	・到達した学生の割合 100%	・主要常緑・落葉果樹の生理生態理論について指導 ・果樹の高品質・安定生産技術の指導 ・最新の栽培技術の講義および指導 ・ <u>県育成品種「佐賀果試35号」等の新品種栽培技術の指導</u>	・各樹種における結果習性や生育ステージ毎の生理生態理論を講義し、実習終了時に気づきや感想を記録・整理することで習得させている。 ・ <u>温州みかん、ブドウ（シャインマスカット等）根域制限栽培の管理指導を通じて、高品質・安定生産技術を習得させた。</u> ・ハウスミカンの炭酸ガス施用について最先端技術を果樹試験場と連携指導し、樹冠拡大や結果母枝の発生を増やすことによる収量向上を図る技術を習得させた。 ・「佐賀果試35号」についてはマルチ栽培による裂果対策やサンテ被覆による日焼け対策に取り組み猛暑の中での高品質果実生産を指導した。またプロジェクト課題として温州みかん根域制限栽培において「佐賀果試9号」の品種特性を把握とりまとめ、佐賀県代表として九州大会でその成果を発表した。	A	【栽培管理技術の習得】 ・常緑、落葉果樹の生理生態を講義するとともに根域制限栽培やジョイント栽培などの高品質安定生産技術の習得に向け、引き続き指導を行う。 ・各品目における最新の温暖化対策技術を実践し早期の課題解決を図る。 【スマート農業技術の習得】 ・AIによる肥培管理システムを活用した灌水、液肥施肥の技術について習得させる。	
	○スマート農業に関する知識の習得	・到達した学生の割合 100%	・AI技術を取り入れた栽培管理技術の習得 ・省力栽培技術の習得	・AIによる肥培管理システムにより温州ミカン、ブドウ根域制限栽培及びナシ低樹高ジョイント栽培を指導した。またプロジェクト課題として温州みかん根域制限栽培において「佐賀果試9号」の品種特性を把握のうえとりまとめ、佐賀県代表として九州大会でその成果を発表した。 ・ロボット草刈り機やスピードスプレイヤーを操作し、省力栽培体系技術を習得した。	A	・省力技術として、引き続きロボット草刈機やスピードスプレーヤーの操作を習得させる。 【GAPの推進】 ・引き続き、JGAPに基づいた記帳を継続し持続的な農業生産方法を学ぶ。また、生産された農産物を直売により消費者へ対面販売し、経営能力の向上を図る。	
	○経営能力の向上 ・果樹経営特性の理解 ・GAP継続審査	・到達した学生の割合 100% ・R6継続審査適合	・果樹経営特性の理解 ・引き続きGAPに取り組むとともに、継続審査に必要な作業を実行する	・カンキツ、ナシ、ブドウ、モモ等使用資材、収量、販売金額等についての記帳を指導するとともに、直売で消費者と対面販売するなかで果樹の経営的な感覚を醸成した。 ・販売面での知見を得るために選果場、卸会社、量販店、直売店で流通研修を実施し、消費者が望む商品づくりを学ぶことで各担当圃場の管理にフィードバックさせている。 ・プロジェクト課題等において温州みかん根域制限栽培やハウスミカンの炭酸ガス施用技術を就農後に導入し経営向上を図れるよう指導した。 ・ブドウ栽培の管理記帳や農薬肥料の在庫管理、整理整頓、安全確認を実践するとともに、学生に対して必要な知識向上のための学習を実施した。 また、9/3にJGAP継続審査を受け、9/30に認証を受けた。	A		

目標	評価項目	令和6年度目標	目標達成のための方策	具体的取組及び結果	達成度	次年度の課題と改善策	評価コメント
2 高い技術力や経営力の習得	【畜産】 ○繁殖生理の学習と繁殖技術の習得	到達した学生の割合100%	・家畜の性周期、発情兆候の理解 ・家畜人工授精技術の習得及び技術の向上	・繁殖牛や子牛、肥育牛の管理技術について理解させるとともに、ICT機器をフル活用し、繁殖牛の発情や分娩兆候の確認、子牛の健康観察、肥育牛の行動観察などを行い、管理の記録についてもスマホで記録させた。 ・1年生は、家畜人工授精師の資格取得へ向けて、知識と技術を習得させた。2年生は、人工授精を実践するとともに、授精証明書などの書類作成を行わせた。 ・エコー（超音波診断機）を用いて、人工授精実施牛の妊娠鑑定講習を行い、技術を習得させた。	A	【家畜繁殖・肥育管理技術の習得】 ・引き続き、家畜管理の基礎を十分理解させたくえて、ICT機器をフル活用し、効率的かつ省力化できるスマート畜産の実践を行う。 ・R5.3に整備したスマート畜舎における肉用牛の飼養頭数が目標頭数に達した。暑熱対策や「佐賀牛」の繁殖・肥育一貫経営における飼養管理技術を向上させる。 【資格取得の推進】 ・R7年度は、家畜人工授精講習会（隔年）の開催年度であり、受講する1、2年の学生全員が合格できるように支援を行う。（既資格取得者は、農大において実践実習を行う。）	
	○家畜栄養の学習	到達した学生の割合100%	・ <u>飼料給与技術の習得</u> ・各畜種（乳牛、種雄牛、豚）の飼料給与技術の習得	・飼料給与基本プログラムに基づいた飼料給与、飼料の必要量（発注数量）を算出させた。 ・発育状況把握のために毎身体測を実施し、飼料給与の調整を行わせた。 <u>・子牛の出荷や繁殖素牛の導入に合わせて子牛セリに参加し、他の出荷牛と比較し農大牛の発育状況を確認するとともに、導入牛の選定技術を習得させた。また、出荷した肥育牛のと畜から枝肉調査の実体験により、飼養管理技術の検証をさせた。</u> ・農大で飼養していない家畜については、畜産試験場での実習を実施（30回／年以上）し、飼料給与技術を習得させた。	A		
	○家畜ふん尿処理及び利用技術の学習	到達した学生の割合100%	・糞尿の堆肥化处理技術の習得 ・発酵舎などを利用した堆肥処理方法の学習 ・堆肥の散布技術の習得	・堆肥舎での関連作業機械を操作した堆肥化处理技術を習得させた。 ・プロジェクト研究を活用し、堆肥化に必要な諸条件を確認し、また自動送風による省力化技術の実践を通じて技術の習得をさせた。 ・ローダーやマニアスプレッタ等の作業機械を用いて圃場散布作業を実施し、技術習得させた。	A		
	○飼料作物栽培の学習	到達した学生の割合100%	・飼料作物生産技術の習得 ・作業機械操作技術の向上	・夏作、冬作の飼料作物を栽培し、生育状況の観察、播種量、施肥量を計算させるなどして生産技術を習得させた。 ・作業機械を用いた耕起、施肥、播種、収穫、調整作業を実施し、技術を習得させた。 ・飼料作物収穫後は、再生させ、複数回の収穫作業を実施させた。	A		
	○管理能力の向上	到達した学生の割合100%	・GAPに関連した知識の習得	・GAPに基づいた記帳や整理整頓を実践し、管理環境を改善させた。	A		

目標	評価項目	令和6年度目標	目標達成のための方策	具体的取組及び結果	達成度	次年度の課題と改善策	評価コメント
2 高い技術力や経営力の習得	【農産加工】 ○農畜産加工の基礎知識及び加工技術の習得	・農畜産加工の基礎知識と加工技術を習得した学生の割合 100%	・野菜・果実・穀類等を使った食品加工に関する基礎的な知識・技術習得のための演習の実施 ・漬物、惣菜、ソース、菓子、製粉・乾燥・レトルト等の加工等演習の実施	・自作した野菜・果実・穀類等を使用した加工品を製造し、それぞれの原料に合わせた加工技術を習得させた。 ・加熱、急速冷凍、包装等加工品製造に必要な機械を操作し、衛生と安全に配慮した加工技術を習得させた。 ・ぶどうジャム、あんぱん（さちかおり使用）や米粉クッキー等、1年生は17品目、2年生は14品目の加工品を製造させた。 ・全ての学生が基礎知識を身につけるとともに、機械の操作ができるようになった。	A	【農畜産加工の基礎知識と加工技術の習得】 ・安全、安心な商品づくりをするために、食品衛生についての知識、理解を深め、衛生環境を適切に保つための取組を継続する。	
	○商品づくりの基礎知識の習得	・商品づくりの基礎知識を習得した学生の割合 100%	・商品づくりの基礎知識、包装・ラベル作成等を習得するための演習の実施	・商品として販売するために必要な食品表示、ラベル作成の他、直売会での販売等を通して知識を習得させた。			
	○衛生管理の基礎知識の習得と実践	・食品衛生についての基礎知識を習得し、商品の製造、管理において適切な扱いができる学生の割合 100%	・清掃指導や法律に準じた加工品の製造方法に関する演習の実施	・食品衛生法やHACCP等食品衛生に関する基礎知識を習得させた。特に、HACCPは衛生管理の基本であることから、作成した計画通りに製造管理が進んでいるかを監視する管理実習も実施した。 ・清掃マニュアルを作り、徹底した清掃指導を行った。			
	○商品の企画、製造、販売	・収益性を考えた商品の企画、販売を1品目以上行う	・農産加工研究会への指導 ・直売での販売動向の把握及び分析	・自作した農作物を原料として、ブルーベリーマーブルパウンドケーキと梨ジャムを学生自ら企画し、試作品を製造した。 ・商品化するに当たり、消費者の意向把握・分析が重要であることから、収穫祭（11月）において、試作品の対面販売を行った。	A		
	【資格等の取得向上】 ○カリキュラムの中で必要な資格取得	・必須の資格 合格率 100% ※大型特殊免許、けん引免許等 ・選択の資格 合格率 50%以上 ※農業技術検定、危険物取扱者、フォークリフト、狩猟免許等	・研修の充実	・資格取得の誘導策として、（特別）講義を実施した。毒劇物や危険物取扱者試験の対策として、「農業と科学」の教科の中で講義を実施するとともに、受検前に特別講義（5校時）を行った。その結果、危険物取扱者の合格者は7名と増加した。 ・必須の資格（免許等）の取得 ※大特・けん引免許試験合格率100%（55人/55人） ・農耕用大特免許27名（本科1年26名＋専科1名） ・農耕用けん引免許28名（本科2年27名＋専科1名） ・選択の資格の取得 ※検定・免許試験合格率71%（39人/55人） ・農業技術検定2級 6名 ・農業技術検定3級 7名 ・危険物取扱者 7名 ・毒劇物取扱者 1名 ・農業用ドローン 7名 ・アーク溶接 10名 ・狩猟免許 11名 ・フォークリフト 22名 ・農業簿記検定3級 1名 ・家畜体内受精卵移植師 3名 ※小型車両系建設機械は3月に実施予定	A		

目標	評価項目	令和6年度目標	目標達成のための方策	具体的取組及び結果	達成度	次年度の課題と改善策	評価コメント
3 全ての学生 の進路決定	○就農・就職決定率	・就農・就職率 100%	・就農・就職指導の強化	・就農・就職決定率は、100%の見込み。 (今年度卒業学生の28名) ・2年生は5月に10日間、1年生は10月に14日間の先進農家派遣研修を実施した。 ・進路指導専任職員(会計年度任用職員)を1名配置して、情報収集及び提供、面接前の指導を行った。 ・ジョブカフェSAGAから講師を招聘し、1年生及び2年生に対し、キャリアプランニングの講義を行った。 ・7月に県内農業法人の会社説明会を開催した(1社が参加)。 ・2月に本県で開催された「 <u>全国農業担い手サミットさが</u> 」に学生全員が参加し、優良経営体の研鑽を深めた。	A	【就農・就職指導の強化】 ・引き続き、将来目標を早めに設定するよう、早期に就農・就職指導等を実施する。 ・ <u>雇用就農を希望する学生には、農大に求人を出している農業法人とのマッチングを考慮して先進農家派遣研修を行う。</u>	
4 農業者研修 の充実	○大型特殊(農耕車)、農耕用けん引の免許取得	・免許合格率:95%以上	・受講生がより理解しやすいよう指導方法を工夫特に、高齢者に対応した操作技術の取得方法	・農家の免許取得を図るため、大型特殊(農耕車限定)を11回、農耕用けん引3回の研修を実施した。 ・模範走行の動画を説明コメント入りで作成(農大HPやYouTubeにも掲載)、模型を活用して説明するなど、受講者が理解しやすいよう工夫した。 ・高齢者など技術取得が遅れる受講者に対しては、職員間で情報共有を図り、苦手なところを明確にし、連携して指導に当たった。また、必要があれば補講(追加走行)を行うことで、運転技術の向上に務めた。 ・大型特殊(農耕車) 免許合格率100% ・農耕用けん引 免許合格率100%	A	【農家の免許取得支援】 ・受講者の技術習熟度に個人差があることから、受講者の状況に合わせた指導を行い、研修全体がスムーズに進むよう努める。 ・ <u>今後、農業機械の知識や操作指導力を向上するため、指導職員用マニュアルの充実を図る。</u>	
	【農産加工支援研修】 ○受講者数	・受講者数の確保 1講座 10組	・農業青年クラブ員及び女性組織等への周知	・プレスリリースの他、市町や農業振興センター等を通して、農業青年クラブ員や女性組織等への周知をした。 ・農業士の役員会や、農村ビジネス推進ブロック別担当者会議の際にも周知を行った。 ・農産加工支援研修 受講者 13名(応募数 16名)	A	・【受講者数の確保】 ・次年度も、より多くの方の目に留まるようプレスリリースを行い、周知を図る。	
		・受講生の理解度 80%以上	・6次産業化の基礎的な知識・技術に関する講義・演習の実施	・農産加工の基礎的な知識習得のため、専門家を招いて、衛生管理、商品開発、原価計算、食品表示制度、マーケティングなどについて講義を実施した。 ・先進事例調査では、工業技術センターとアスパラガスの6次産業化に取り組む農業者を視察し、受講生の満足度が高かった。 ・アンケートにより理解度を調査した結果、講座内容を概ね理解した受講生は86.5%だった。	A	・次年度は、受講者が講義・演習に出席しやすいよう、日程などを工夫して実施する。	
	○農業者組織(農業青年クラブ)活動の活性化	・研修に対する満足度 80%以上	・農業青年クラブ員を対象とした各種研修等の実施 ・参加後の聞き取り調査等の実施	・役員理事会、各部(事業部・組織部・冬季のつどい実行部・70周年記念実行委員)会議は、オンライン(Teams)で実施し、クラブ員の負担を軽減した。 ・また、農業青年会議(夏のつどい)は、クラブ員間の交流・連携の強化に重点を置きイベントを実施し、好評だった。今後も続けていきたい。 ・さが農業力向上セミナーは、クラブ員に身近な講演テーマとなるよう当クラブのOBを講師に迎え開催した。その結果、参加率も向上し、全員がセミナーに満足であった。今後の取組にも活かしたい。 【満足度】 <u>セミナー全体:満足60%、やや満足40%</u> ・農業青年冬季のつどい ・九州、全国ブロックの会議・研修会等への参画 ・研修後、聞き取り及び反省点等のとりまとめを実施	A	【各種研修会等の充実強化】 ・70周年記念大会の成功に向けて、引き続きサポートする。 ・九州、全国への活動にクラブ員を派遣し、交流の場や視野を広げるよう引き続き促す。 ・各部での行事において、参加者が低迷していることから、クラブ員の主体性を一層発揮できるような行事の構成、課題の設定、役割分担を行う。	

目標	評価項目	令和6年度目標	目標達成のための方策	具体的取組及び結果	達成度	次年度の課題と改善策	評価コメント
4 農業者研修の充実	○農業者組織(青年農業士)活動の活性化	・研修に対する満足度 やや満足以上の割合80%以上	・青年農業士を対象に各種研修会の開催(参加しやすさを考慮して企画) ・参加者へのアンケート調査実施	・各種研修会 ・農業士との合同研修(7月、12名) ・全体研修会(1月12名) ・県外研修への派遣4名(9月、12月、1月、2月) ・研修後に参加者へのアンケート調査を実施(7月)。 <u>その結果、研修会についての満足度は、「やや満足」以上の割合が100%だった。</u>	A	【各種研修会等の充実強化】 ・全体研修会の開催など、青年農業士が参加しやすいように企画する。 ・研修に対する満足度を高めるため、役員会などで内容を十分に検討しながら開催する。	
	○農業者組織(農業士)活動の活性化	・組織活動の活性化や研修に対する満足度の向上 やや満足以上の割合80%以上	・農業士を対象とした各種会議・研修会の開催(できるだけ多くの農業士が参加できる内容にする) ・参加後の聞き取り調査等の実施	各種会議の開催 ・役員会4回(5月、9月、11月、3月(予定)) ・佐賀県内JA代表者との意見交換会(11月) ・県農政関係課長との意見交換会(荒天のため中止) 各種研修会の開催 ・青年農業士との合同研修会(7月) <u>【満足度】96%</u> 各部会研修会(7部会) ・農産(2月～3月予定)、野菜(2/17)、果樹(9/26～27、3月予定)、畜産(2/12～14)、花き(2/5～7)、農業農村活性化(9/9) 各種研修会・会議等への参画 ・『全国農業担い手サミットinさが』実行委員会・幹事会・代表者会(4回) ・『全国農業担い手サミットinさが』(1/21～23) ・九州・沖縄農業士研修会(10月) ・九州農政局幹部と九州・沖縄各県指導農業士との意見交換会(3/10実施予定、開催幹事県) ・研修後、満足度等について聞き取りを行い評価し、次回開催のための参考とする。	A	【各種研修会等の充実強化】 ・全体、部会の研修会等への参加率が低いことから、会員の自主性を尊重しつつ、組織活動の活性化、研修等の充実を図る。 ・九州や全国の農業士との連携について継続して取り組む。 ・R7年度は、 <u>農業士及び青年農業士の認定年度であり、役員が大幅に変わることが予想されることから、円滑な会運営となるよう努める。</u>	